

科目ナンバリング：UTL-2-311-06



■授業の目的及び到達目標

本講義の目的は、生徒指導を教育活動全体を通して組織的に推進できるように、その意義や原理、進め方を理解することである。生徒指導の意義や原理、それを踏まえた学級（ホームルーム）活動、学年・学校における生徒指導の進め方及び生徒指導上の様々な課題と校外の連携も含めた組織的な在り方を理解できることが到達目標となる。

■授業計画

- 1 生徒指導の意義と原理（1）
生徒指導の意義と課題とともに、教育課程における生徒指導の位置づけを理解する。
- 2 生徒指導の意義と原理（2）
生徒指導の前提となる発達観、指導観、集団指導・個別指導の方法原理を理解する。
- 3 生徒指導と各教科との関連
各教科、特別の教科道徳、総合的な学習の時間、特別活動、部活動等における生徒指導の意義や重要性を理解する。
- 4 生徒指導と教育相談
生徒指導と教育相談に対する基礎的な考え方とその違いを理解する。
青年期の発達の特徴と生徒指導における生徒理解の重要性を、事例を通して理解する。
- 5 生徒指導の進め方（1）
学校の指導方針、学校・学年・学級の教育計画に基づいた組織的な取り組みの重要性を理解する。
- 6 生徒指導の進め方（2）
基本的な生活習慣を確立し、規範意識・倫理観を醸成する日常的な生活指導の在り方を理解する。
- 7 生徒指導に関する法制度
校則、懲戒、体罰等の生徒指導に関する主なきまりや法令等の内容を理解する。
- 8 個別の課題を抱える生徒への指導（1）
学級担任、教科担任の立場で生徒の自己肯定感を育む生徒指導をどう進めるかを考える。
- 9 個別の課題を抱える生徒への指導（2）
少年非行、暴力行為の定義を理解し、早期発見の事例を通して生徒指導上の対応の視点を理解する。
- 10 個別の課題を抱える生徒への指導（3）
いじめ、不登校の定義を理解し、事例（高等学校における中退を含む）を通して生徒指導上の対応の視点を理解する。
- 11 個別の課題を抱える生徒への指導（4）
インターネットや性に関する課題、じどうぎゃくたい、自殺などへの生徒指導上の対応の視点を理解する。
- 12 家庭・地域・関係機関との連携
個別の課題を抱える生徒への指導に「チーム学校」としてどう対応するかを具体的に考える。
- 13 学修のまとめ
試験及び試験後のフィードバックとしての解説を行い、これまでの学習の到達度を確認する。

■授業の方法

- ・教科書を使った講義を行う。
- ・グループ討議を行い、多様な視点から生徒指導の進め方を具体的に理解する。
- ・場面指導におけるロールプレイングを行う。
- ・授業の振り返りをまとめる。

■予習・復習

予習：次回の授業内容に関するテキストの箇所をよく読んで、関連する情報を各自で収集し、自分の意見を述べるができるようにしておく。

復習：授業内容をもとにした課題の提出を求める。

■成績評価の方法（成績の評定方法、授業態度、レポート等の扱い）

- ・授業中の課題の取り組み状況と試験を総合的に評価する。
- ・試験50%、課題やレポートの作成（予習・復習を含む）、演習を含む授業中の取り組み状況50%で評価する。
- ・課題については次の授業でフィードバックを行う。

■教科書・参考書

教科書：梅澤秀監・木内隆生・出張吉訓・嶋崎政男編著『生徒指導・進路指導15講（大学図書出版 2023年）』

参考書：『生徒指導提要（改訂版）（2022年12月）』文部科学省HP

https://www.mext.go.jp/content/20221206-mxt_jidou02-000024699-001.pdf

■関連する科目

「教育原理」「教職論」「教育課程論」「特別活動論」「進路指導論」などの教職課程科目が直接関連する。

■当該科目の実務経験（該当する場合のみ記載）

担当教員は都内公立中学校において41年間勤務し、そのうち13年間は管理職として学校経営にあたった。多様な学校における生徒指導の実務経験を教員と管理職として対処した実績をもつ。それらを踏まえた実践的な講義と演習を行う。